

◆開催報告

公開講演会 「ターリバーン復権下で『動く』アフガン女性運動—現地での聞き取りから」

講師 清末愛砂 室蘭工業大学教授（2023 年 8 月 21 日 10：00—11：30）

室蘭工業大学にて開催された本公開講演会は、会場約 20 名、オンライン約 40 名の参加があった。アフガニスタンにおいて、ターリバーン政権が復活して 2 年が経過したが、女性たちは今どのような状況に置かれているのか、今年 3 月に現地を訪れて生の声を聞く機会をもった清末愛砂氏のお話をうかがった。

アフガニスタンの女性たちが苦しい状況に置かれている要因には、伝統的な家父長制的価値観や、1979 年以降のソ連による軍事進攻、2001 年以降の米軍による攻撃と駐留、ターリバーン政権の復活など様々なものが絡み合っているのもであって、ターリバーンによるイスラームの厳しい解釈だけに着目しては重要なことを見落としてしまう、と清末氏は強調した。ターリバーン政権に対する米国の経済制裁が最も苦しめているのは、アフガニスタンの少女たちであり女性たちなのだという。そうした中、アフガニスタン革命協会 (RAWA) の女性たちは、ただ黙って現状に耐えているわけではない。女性の教育支援、就労支援、抗議活動など様々な活動を継続しており、そこでは男性によるサポートも重要な役割を果たしている。「RAWA と連帯する会」の共同代表を務める清末氏は、RAWA はアフガニスタンから退避することはないだろうとし、「いかなることがあっても、RAWA の女性たちとの連帯の手を離さない」との決意を語った。フロアやオンライン参加者からは多くの質問があり、終了後のアンケートにおいても、アフガニスタン女性を苦しめているのが必ずしもターリバーンだけではないこと、様々な要因を含めて判断することの重要性を理解したなどのコメントが寄せられた。（報告者：小野仁美）